

美の先端科学

# インタラクティブ アートの作り方

## 『感情翻訳メール』前編

### メールに載せきれない 感情を伝えるメーラー

今回から3回にわたり、感情を電子メールで伝えることができる『感情翻訳メール』を紹介する。

これまで紹介してきたインタラクティブアート作品は、いずれも観客が作品を体験するという前提から開発されたものばかりだった。それに対して感情翻訳メールは、ユーザーが自分のパソコンにインストールして使用することができるソフトウェア。(メーラー)として開発した。

メールのやり取りにおいては、文面に自分の気持ちをうまく乗せることができないことも多い。そのため本意ではない文章を書いてしまったり、適切ではない言い回しをしてしまうことがある。

また、読み手側の受け止め方が送り手が予想していたものと異なることもある。これらの場合には

相手側の感情を害したり、意思の疎通がうまくできないといったトラブルが発生するかもしれない。一度、関係がこじれてしまうと、それをメールのやり取りで修復するのは非常に難しい。このように、メールによるコミュニケーションは便利な一面、難しい面も備えているのが特徴である。

そこで、この問題を解決するために開発したのが、感情そのものを翻訳してメールで伝える本ソフトウェアである。

### メール文中に含まれる 「感情単語」を識別

感情翻訳メールでは、メール文中に含まれる単語から感情表現の役割を果たす単語を見つけて出し、その単語に応じた感情をCGキャラクターの動作と音声で表現する。すなわち、感情翻訳メールは音声読み上げ機能を備えたメーラーなのである。

ここで使用するキャラクターは、赤ん坊の姿をした「ミック」だ。むき出しになりかねない感情を表現させるには、誰でも親しみやすい赤ん坊はうってつけの存在だ。

ミックが表現する感情は全部で9種類。この分類は「ニューロベイベー」で分類した8つの感情をベースに、新たに「あいさつ」という感情を加えている。以下に、表現される感情の一覧を示す。

・喜び ・恐れ ・あいさつ  
・驚き ・普通 ・悲しみ  
・怒り ・退屈 ・からかい  
ミックはそれぞれの感情に対応した動きを見せながら、メールを読み上げてくれるのだ。(続く)

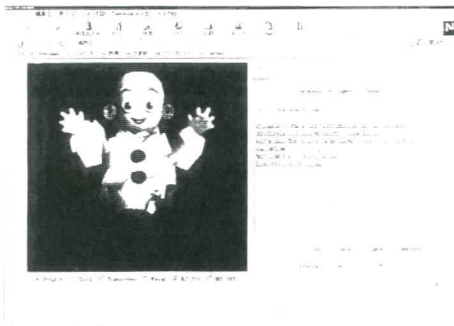
## 言葉による行き違いを防ぐ『感情翻訳メール』



●友人や知り合いに対し、何気ないつもりで書いたメール。決して相手を非難したりバカにする意図はないのに、誤解を招きかねない単語や表現が含まれていたとしたら……。



●受け手はそのメールを読んで憤慨し、思わずアタマに血が上ってしまうかもしれない。メールを読みながら「ふざけるなー!」と机を叩いている可能性もあるのだ。



●感情翻訳メールのウィンドウ。このソフトウェアはJavaで書かれており、ブラウザ上で動作する。現在はネットスケープ・ブラウザのみに対応。画面の右側は通常のメーラーと同様、メールアドレスとタイトルの記入欄、および本文の記入欄となっている。その下に並んでいるボタン類を使うことで、ミックの動作を確認したり、新たな動作を付け加えることができる。



●ミックの動作はカスタマイズすることが可能だ。9つの感情をマッピングしたウィンドウ上で、任意の単語に特定の感情を対応させることができる。それぞれの感情は、顔・動き・背景の3要素で表現される。